

# 小学生のスポーツ実施率向上を目指して

同志社大学 スポーツビジネスゼミB

丸山 弘貴 吉原 毅 高濱 聡一郎 野村 帆乃果



緒言

解析結果

政策提言

結論

# 目次

---

緒言（子どもの体力・運動能力の二極化）

解析結果（SPSSより）

政策提言

結論

近年.....

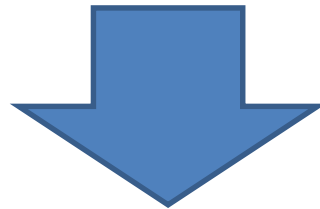
**子どもの体力・運動能力の  
低下および二極化が進んでいる**



## 原因①

以前 かくれんぼや鬼ごっこをする。  
➡ 身体を動かす機会があった！

しかし...



現在 電子ゲームや習い事に時間を割く。  
➡ 身体を動かす機会が減る！

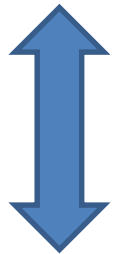
## 原因①

運動能力の低下につながっている



## 原因②

運動をする子 運動部やスポーツ少年団等に入り、  
日常的にスポーツを行う。



**身体能力が高くなる！**

運動をしない子 学校の体育（週に2,3時間程度）の  
運動しかしないこともある。



**運動不足になる！**

## 原因②

ギャップが大きい！



運動能力の二極化につながる！



ギャップを埋めるために ...

三間(時間・空間・仲間)の中にある、

**スポーツと触れ合うための  
「空間」の充実**

が必要である



つまり...

多種目のスポーツに触れる「**空間**」を提供する



スポーツを体感し、楽しさを知る



スポーツの習慣化につながる

## 小学生の実態



実際、現在はどのような小学生がスポーツ実施率が高いか？  
どのような小学生がスポーツが好きと感じているのか？

# SPSSの結果

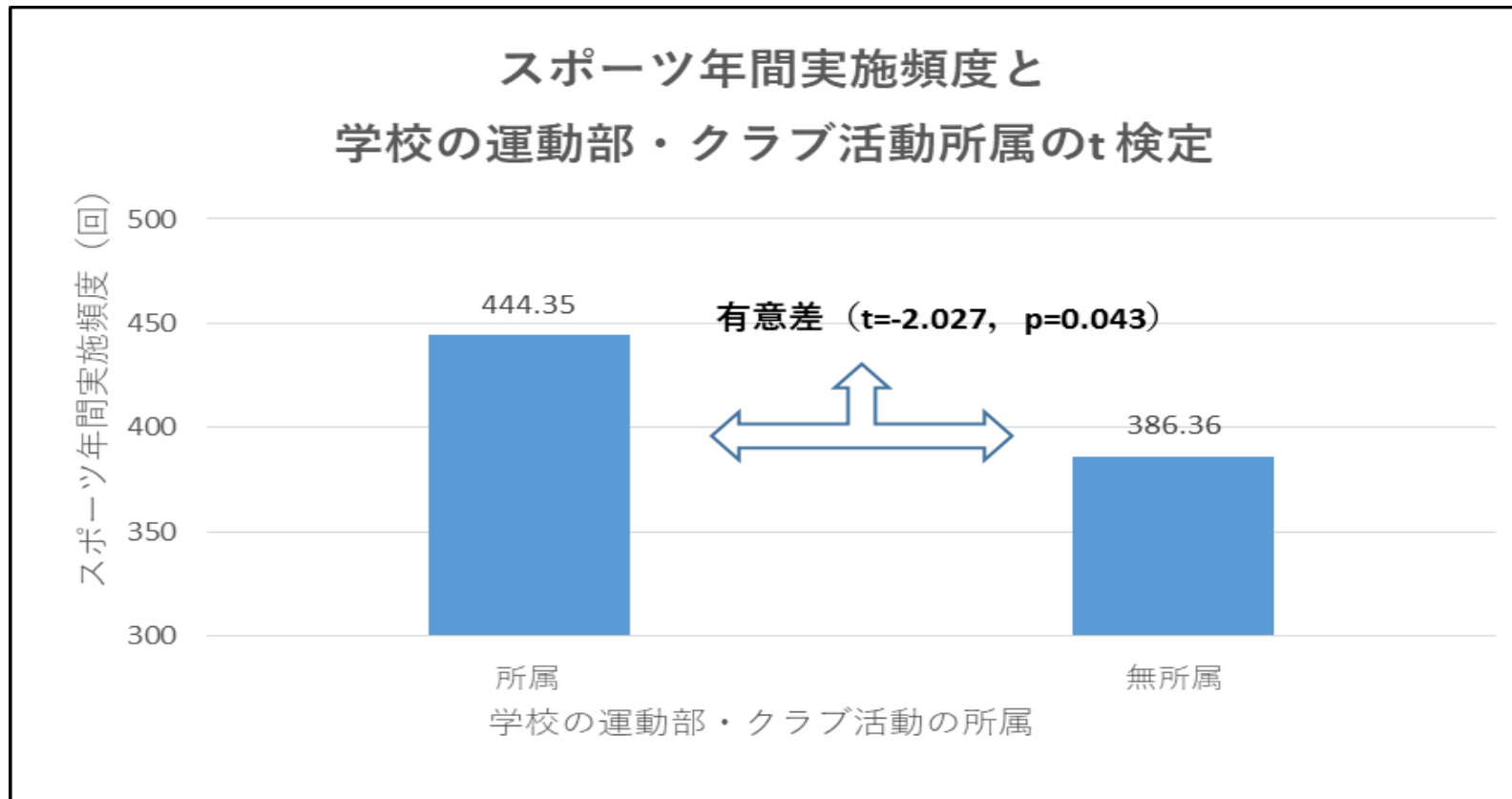


図1 スポーツ年間実施頻度と学校の運動部・クラブ活動所属の t 検定

**運動部・クラブ所属 > 運動部・クラブ無所属**

# SPSSの結果

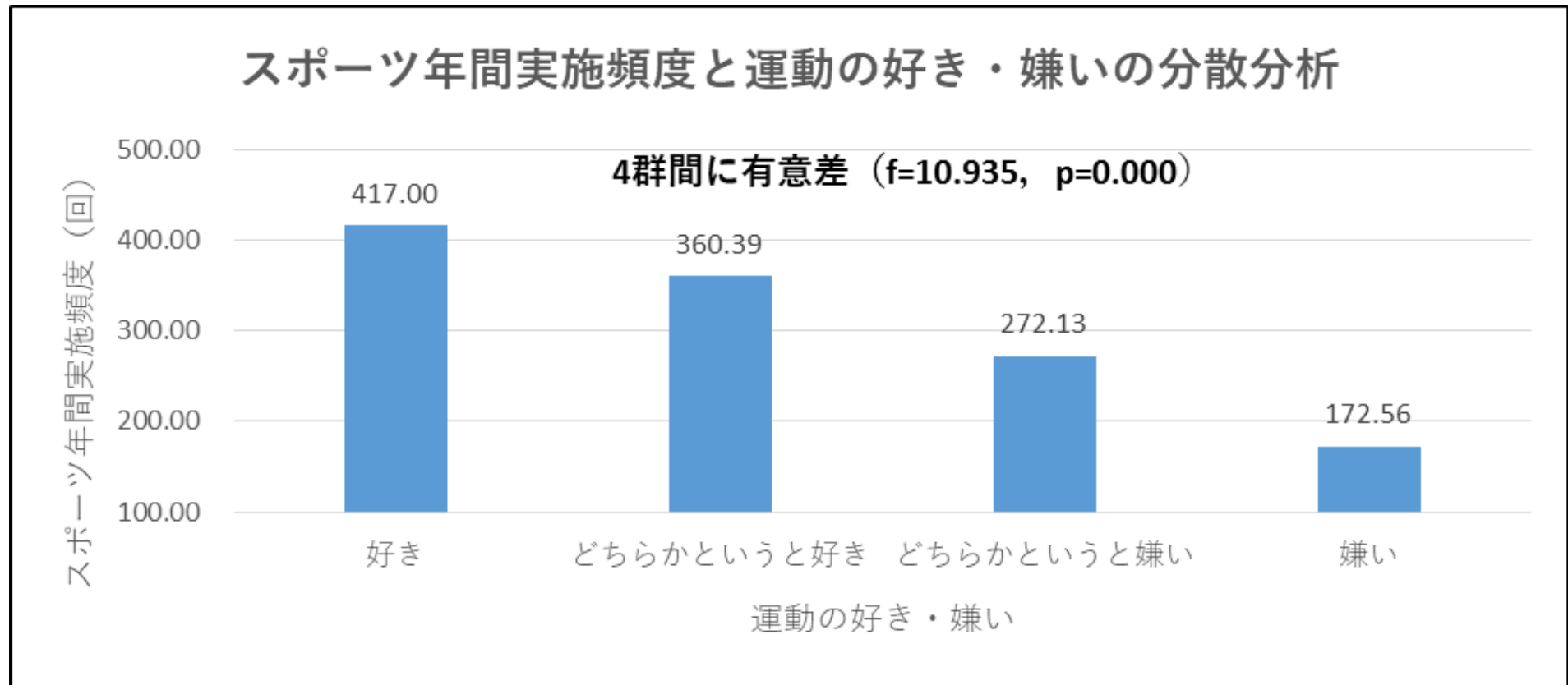


図2 スポーツ年間実施頻度と運動の好き・嫌いの分散分析

スポーツ好き > スポーツ嫌い

つまり...

- 運動部に所属している方が、していない方よりも年間スポーツ実施頻度が高い。
- スポーツ好きの方が、嫌いよりも年間スポーツ実施頻度が高い。



以上から...

運動嫌いの子に



運動を「好き」、「楽しい」と感じさせることが、  
スポーツ実施率向上につながる

運動嫌いの子どもが、  
スポーツを「楽しい」と思い、自発的に  
スポーツできる環境を提供する

# トップアスリート指導派遣事業

## トップアスリート指導派遣事業とは？

トップアスリート等のチームを派遣し、体を動かすことの楽しさなど講話や実演・指導等を行い、子どもたちが主体的にスポーツに親しむ態度や習慣を身につけることを目的とする事業。



## トッパスリート指導派遣事業の特徴

### トッパスリート指導派遣事業

広く地域の子どもたち

対象が幅広く指導が難しい

1日という短期制

習慣化が見込めない

トッパスリート・チーム

継続してきてもらうのが困難

# トッパスリート指導派遣事業の効果

子どものスポーツ実施率は  
2011年から比較すると少しずつ増加傾向にあるが...

## 過去1年間に1回以上行った運動・スポーツ

1位	鬼ごっこ
2位	自転車遊び
3位	ぶらんこ
4位	かくれんぼ
5位	なわとび

# トップアスリート指導派遣事業の効果から

運動遊び



継続して行うことのできるスポーツ


そこで私たちは...

緒言

解析結果

政策提言

結論



日本アスリート銀行  
の設立

## 具体的な解決策（政府側）

### ・「**日本アスリート銀行**」の設置

各地の希望する小学校に元アスリートやライセンスを持つ指導者を派遣するための機関。

→ 先に述べた環境を整えるためのもの。

・主体・・・スポーツ庁 健康スポーツ課

# 「日本アスリート銀行」

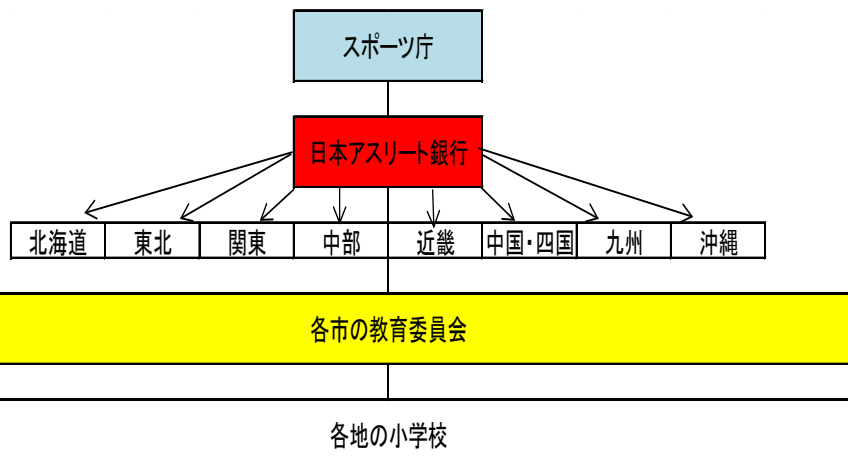
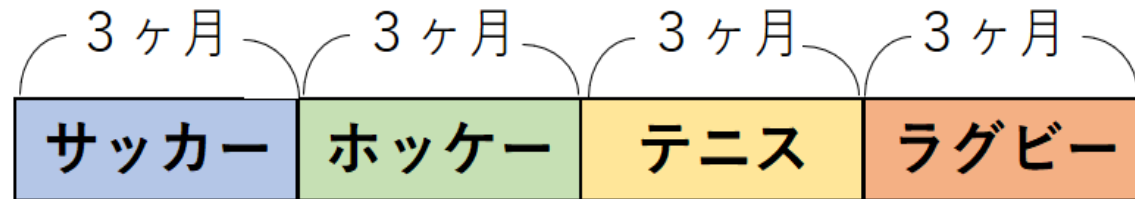


図3 「日本アスリート銀行」の仕組みの略図

- 1.まずスポーツ庁の直属の管理下に「日本アスリート銀行」を設置する。
- 2.その下に日本をブロックごとに8つ支部を作り、各県の各市の教育委員会に管理させ、希望する小学校に派遣する。
- 3.元アスリートや指導者は、このシステムに登録し、居住状況や専門種目と一致する小学校と契約する。

## 具体的な解決策(学校側)

生徒



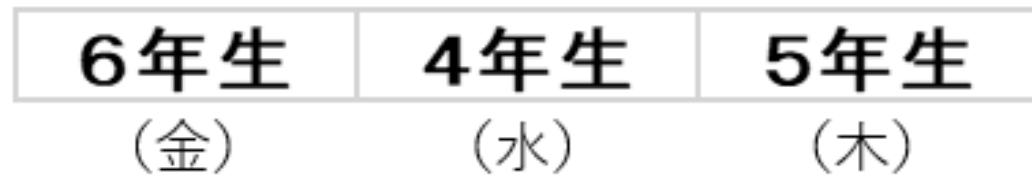
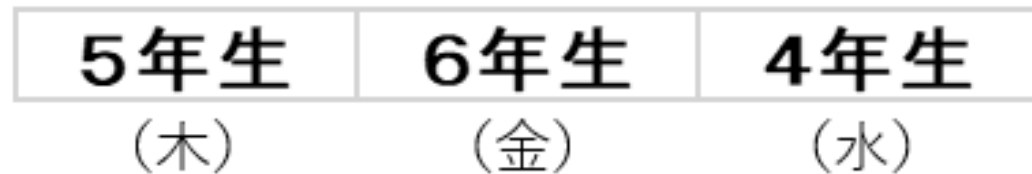
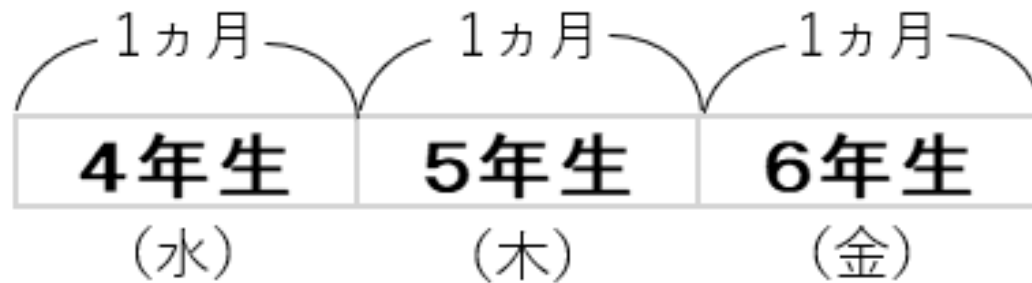
指導者



1. 小学校4~6年生を対象とし、週1回、学校の1コマを利用しスポーツを行う。
2. スポーツは3カ月毎に選択スポーツを変え、1年で4種類のスポーツを体験させる。

## ex. サッカー

## 指導者





## 具体的な解決策（学校側）

\*このとき、サッカーや野球などのメジャースポーツだけでなく、マイナースポーツも選択肢に入れる。



ラグビー ラクロス  
アメリカンフットボール  
陸上ホッケー

## 解決策のメリット



### 指導者側

- ・年齢が異なり、様々な傾向の子どもを担当することで  
**コーチングスキルの向上**につながる。
- ・引退したアスリートや指導者に**新たな刺激**を与えることができる。

## 解決策のメリット

### ▶学校側

- 1ヵ月毎に違う指導者の下でスポーツを行うことで、違った考えや楽しみを得ることができる。
- マイナースポーツも取り入れることで、自分に合うスポーツに出会うきっかけになる可能性がある。



**スポーツをやらない子どもが減り、  
二極化を抑えることができる！**

## トップアスリート指導派遣事業との違い

### トップアスリート指導派遣事業

広く地域の子どもたち

1日という短期制

トップアスリート・チーム

### 私たちの政策提言

小学生児童

3ヶ月を一期とする四期制度

元アスリートやコーチ希望者

## 結論

4～6年生までの3年間で様々なスポーツに触れる。



自分に合った「楽しい」、「続けたい」と思える  
スポーツに出会いスポーツが習慣化される



子どものスポーツ実施率が向上する



**子ども全体の体力が向上する**

## 今後の課題

- ・指導者の賃金問題
- ・マイナースポーツの指導者が各小学校に派遣できる人数が揃うか。
- ・複数の指導者に教わる中で、異なる指導を受け、そのスポーツに対し混乱してしまうかもしれない。
- ・触れたスポーツの習慣化に伴ない、授業外での機会の場の提供はどうするか。



---

# 参考文献

- ・文部科学省 子どもの体力の現状と将来への影響

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo00/gijiroku/attach/1344530.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo00/gijiroku/attach/1344530.htm)

- ・笹川スポーツ財団 スポーツライフデータ2015

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/329/Default.aspx#block4-01>

- ・文部科学省 トップアスリート派遣事業(拡張)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/hyouka/kekka/08100105/093.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/08100105/093.htm)

---



御清聴ありがとうございました。